

悪戦苦闘

フクタニニュース

発行



(株)フクタニ



社長の履歴⑪

さて、今回から新たなチャレンジの話になります。石材業はこの先需要が急速に伸びていくだろうと予測、少子高齢化がますます進むその中で、人口のウェイトが大きな高齢者に向けた仕事であればチャンスがあるのではないかと考え、福祉分野の進出を考えました。しかし、一概に福祉といっても全く経験がありません。全く未知の世界です。とりあえず福祉の片隅の仲間に入れていただきたく、今の二戸病院の近くに介護用品の店を立ち上げます。当時は介護保険もなく、お店を構えていてもお客さんが一人も来ない日もあり、給与も払えないような感じでしたので、当時専業主婦だった私の家内が店番ということでスタートしたのです・・・(続く)



現在の介護センターカシオペア
お陰様で今年20周年



プラント稼働状況



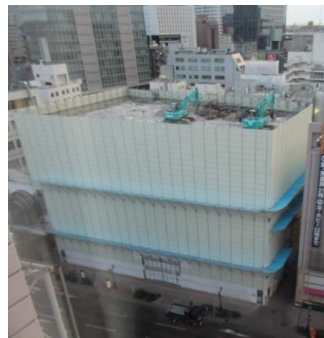
汚泥が堆積

れく 茶な所積い汚泥の排
るる 倍飯いでしかずの毎
日こ速事ト物たずの毎
々とででラがり、反出が上
でを春す。ブル常色々槽に手
す。待がが。日流なな堆
。ちやが。日流なな堆
焦っが。日流なな堆
がて。日流なな堆

今年冬の、砕砂プラントを稼働して暖かく、休暇明けから稼働率低下を覚悟して、10℃を下回る日も数日あり、悪戦苦闘の毎日です。

なんだ そうなんだ

地下鉄の電車っていったいどこから入ったのか。それを考えると夜も眠れない。昭和50年代にそんな漫才ネタがあった。地上部のない路線では専用の穴から入れるそう。奇想天外なことはしていない。



こんな疑問もある。ビルの建設現場のクレーンはどうやっておろすのか、答えは親クレーンを解体するため、子クレーンを組み立て、子クレーンで親クレーンを解体し、その子クレーンを孫クレーンで解体し、人で解体できる程度になったら人がかかえておろすのだそうだ。つまらないほど当たり前のことである。仙台市内でビルの屋上に油圧ショベルがのっている光景を見た。どうやって上がったのか、そしてどうやっておりるのか、これもクレーンでつり上げるのだそうだ。個々の技術は日新月异で進化している。その技術を生かし成果を上げるのは、常識や当たり前を積み重ねる現場力なのだと思う。

兄弟誕生

コマツ製ホイローダーWA380-6型に変わり、WA380-7型を導入しました。

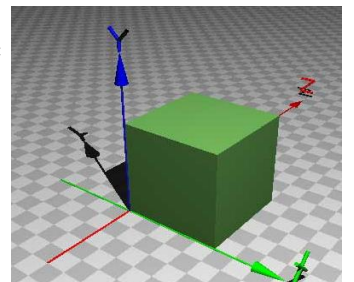


6型より時間当5割ほど燃料消費量の少ない優れものです。7型はすでに1台導入しており、同機種が兄弟として奉公していただくこととなりました。過去にCAT950Bが兄弟で在籍していたことがありますが、それ以来の兄弟機の誕生です。どちらも丈夫で長持ち、事故なく働いてほしいものです。



～3次元データが もたらすもの～

昨年12月に撮影した空中写真から平面図作成のための3次元データ処理を実施している。X・Y・Zの座標情報を持つ1測点を約1億測点つなぎ合わせていく作業である。作業をしている測量会社の担当者曰く『1路線処理するのにコンピューターが二日間も仕事をしている』と、頭を抱えていた。コンピューターでもかなりの情報量らしい。写真測量による3次元データには次のようなメリットがあると考えられる。まず、測量段階では測量地点を人が歩く必要がなくなるので作業が容易に安全になること。立体での可視化が容易になること。平均断面法をはるかにしのぐ精度による体積の算出が可能となること等があげられる。このことは生産管理や品質管理へも展開できる情報となるであろう。ぜひとも使いこなしたいものなのだが、頭の中の演算装置が最もあてにならないのだ。



編集後記

3月ひな祭り・・・ふと、今年娘が二十歳になるせいなのか、あと何年この雛人形はここで飾られるのかな・・・と少し淋しい思いで飾り付けをしました。『早くしまわないとお嫁にいけない』というのが、ひな祭りの原型である流しびなの厄払いから来たもので、その日のうちに川に流してしまわないといけないことからきたらしい。お嫁に出したくない気持ちとうらはらに、飾りながら既に片づけることも考えている複雑な気持ちでした。

